

授業科目名	社会学と社会システム	単位数	2単位
担当教員名	細田 満和子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる(専門知)</p> <p>DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力)</p>			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1)社会学の基本的な見方、社会システムについての考え方を理解する。</p> <p>(2)「常識を疑う」こと、「社会は社会によって作られていること」を理解する。</p> <p>(3)現実に起きている諸問題の背景には、その問題を生じさせている様々な人々の営みや制度や仕組みがあることを理解する。</p> <p>(4)社会問題のいくつかのトピックを、社会学や社会システムの考え方で説明することができる。</p> <p>(5)自ら社会的問題を設定して考えてゆくことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会の中で現実に起きている事象を理解しようとするには、その現実を成り立たせている様々な人々や制度や仕組み(システム)について良く調べることが重要になってきます。同じ事象であっても、その人の置かれている立場によって見え方は異なってきます。社会学では、理念や観念の世界ではなく、現実に起きている社会的な事象を対象に、独自のツールを使って読み解いてゆく作業をします。社会学がどんなふうに使えるのかを、具体的な問題を対象にして、考えていただきたいと思えます。多様な価値観を持つ人々が、共に生きる社会を構想するうえで、必要な技法を身に付けることになるでしょう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:地位と役割</p> <p>第2回:役割期待、予言の自己成就</p> <p>第3回:社会化と過社会化</p> <p>第4回:心の習慣</p> <p>第5回:制度論</p> <p>第6回:ライフコース論</p> <p>第7回:セクシャリティとジェンダー</p> <p>第8回:規範と逸脱</p> <p>第9回:男女共同参画社会、ライフ・ワーク・バランス</p> <p>第10回:社会の中の子ども</p> <p>第11回:ソーシャルキャピタル(社会関係資本)</p> <p>第12回:リバータリアニズムとコミュニタリアニズム</p> <p>第13回:個人と共同体</p> <p>第14回:公共性</p> <p>第15回:ボランティアとアドボカシー</p> <p>科目修得試験</p>			
<p>スクーリングでの学修</p> <p>社会集団論、役割論、社会化論、ライフコース論、ジェンダー論など、社会学の基本的な概念についての講義を行い、実際にこうした概念を自分の状況に当てはめてみるグループワークを行います。</p>			
<p>テキスト</p> <p>細田 満和子(2012)『パブリックヘルス市民が変える医療社会—アメリカ医療改革の現場から—』明石書店、978-4750335230</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>ロバート・ベラー(1991)『心の習慣—アメリカ個人主義のゆくえ』みすず書房、978-4622037873□</p> <p>ロバート・ベラー・バットナム(2006)『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房、978-4760129034□</p> <p>佐藤 俊樹(2011)『社会学の方法—その歴史と構造』ミネルヴァ書房、978-4623061242□</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)</p>			